

平成18年度の
市の決算を
公開します

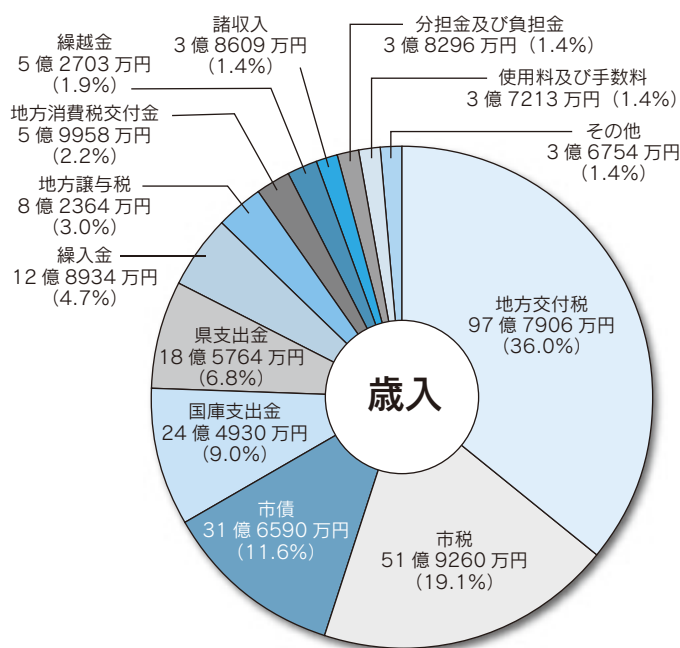
決算

市では、市民の皆さんが納めた税金の使い道や、市の財政がどのような状況にあるかを知っていただくために、毎年2回「財政事情の公表」を行なっています。今回は平成18年度決算の状況についてお知らせします。
(宇城市ホームページ上でも財政状況の公表を行っています)

市のお金は 3つの会計に振り分け

市では、年間の予算を3つの会計に振り分けています。通常出し入れするお金は「一般会計」という会計、そして「特別会計」という会計には「特定の事業に使うお金」が出入りします。3つ目は、法律によって自治体でも収益が認められている水道事業や市民病院事業の「企業会計」です。
「特別会計」の中には、次の7つの事業ごとに区切りがあり、ほかの目的に使うことはありません。

一般会計歳入決算額 271億9,282万円



① 市債（借入金）・・・31億590万円（11・6%）
道路などの社会資本整備や農業基盤整備などの事業のために借り入れたお金です。
② 国・県支出金・・・43億695万円（15・8%）
特定の事務事業に対して国や県から交付されるお金です。
③ その他（地方消費税交付金など）・・・17億6576万円（6・5%）
国が国税として徴収し、一定

の基準によって譲与される地方譲与税や県が徴収した税の一部を交付される地方消費税交付金、自動車取得税交付金などがあります。
**預金は27億7207万円
借入金は487億5570万円**
市にも預金と借りたお金があります。一般会計・特別会計の総額で、市の預金（基金）は27億7207万円、市の借入金（市債）は487億5570万円です。

「一般会計」

**歳入は
271億9282万円**

平成18年度、一般会計に入ってきたお金（歳入）は271億9282万円。そこから使ったお金（歳出）は261億8043万円（P4参照）でした。差し引きは、10億1239万円となり、平成18年度決算は「黒字」となります。翌年度（平成19年度）に繰り越すべき財源2億5937万円を差し引いた実質収支額は7億5302万円となりました。

歳入には自主財源と 依存財源があります

市が自分で確保することができ収入が自主財源です。国や県から交付されるお金や借入金などが依存財源です。





**自主財源は30・1%の
81億7516万円**

内訳は次のとおりです。
①市税・・・51億9260万円（19・1%）

**依存財源は69・9%の
190億1766万円**

内訳は次のとおりです。
①地方交付税・・・97億7905万円（36・0%）
地方公共団体が一定の水準の仕事ができるよう国から交付されるお金で、用途が特定

皆さんが納めた市税の内訳

	市民税 19億2,518万円 市民1人当り 30,088円
	固定資産税 27億7,137万円 市民1人当り 43,312円
	軽自動車税 1億2,413万円 市民1人当り 1,940円
	市たばこ税 3億7187万円 市民1人当り 5,812円

用語の説明

●基金 年度間の財源の不均衡を調整するためのものや施設建設などの目的で積み立てるものなどがあります。

●市債 市が道路や施設の整備などを行う場合、国や金融機関から借り入れるお金のことをいいます。市債は応急的な財源の確保であるほか、将来の市民皆さんにも費用負担してもらおうという世代間の公平性を図るという機能も持ち合わせています。

預金残高（基金年度末残高）	
財政調整基金	1,427,954千円
その他	1,344,116千円
計	2,772,070千円
市民1人当たり	43,323円
市債残高（借入金年度末残高）	
市債	48,755,705千円
市民1人当たり	761,975円

1人当たりは平成19年3月31日現在の63,986人で計算